喬木村立喬木第一学校

（１）学級数　13 学級

（２）児童・生徒数　262 名

（３）職員数　39 名

（４）学校紹介　http://takagi1.vill-takagi.info

本校は、明治５年に嚶々小学校として開校してから、今年度で 154 年目を迎える。天竜川東岸の段丘上に位置し、夕焼けに染まる飯田の町並みの眺望がすばらしい。近くに喬木中学校、たかぎ保育園があり、互いに連携を取り合って教育活動を進めている。

学校教育目標を「力一杯　今を生きる～世界の人となるために～」とし、多様性に富んだ児童が、「自分と向き合う力」「自分を高める力」「他者とつながる力」を意識し、力をつけていけるような教育活動に取り組んでいる。

（５）日常的な情報機器の活用

日々の教育活動や校務の中で生かす方法を探りながら活用を進めてきている。

①児童用タブレットの学習活動への活用

・スプレッドシートや Canva を利用して個々の考えを共有する。

・スプレッドシートを利用して授業の振り返りを共有する。

・Canva を用いて、学習課題の提示や今日やること、授業の流れなどを視覚的に確認できるようにする。

・授業時間の隙間や家庭学習で e-ライブラリを活用して、個々の進度で学習を進める。

・翌日の予定を Google クラスルームに載せることで、家庭からも確認しやすくする。

このように、日常的に情報機器を活用できるよう、学年に応じて利活用している。また、全ての職員が同様な指導ができるようにするために、職員の ICT 研修も位置付けている。

②教科以外での活用

・児童総会の議案書を Google ドライブで共有

・読み上げ原稿をタブレット上で作成して効率化

・WebQU の活用

③校務 DX の一環として

・職員間、村内他校職員、村教委との連絡への Google Chat の活用

・成績処理、名簿管理、保健関係書類の C4th 利用

・職員会議資料をペーパーレス化し、Google ドライブ上に資料を置いて要項からリンクする。

・児童の出欠連絡、およびメール連絡網として、C4th Home ＆ School を利用

・学校行事の感想や学校自己評価などの保護者アンケートへのフォーム利用

・各種行事の職員反省で、共有ファイルやフォームを利用して記入、ペーパーレス化と効率化を図る。

・反省や保護者感想のまとめに NotebookLM のような生成 AI を活用する。

（６）課題等

探究していく児童の育成を目指し、本年度は「つながり」（前時と本時、前活動と本活動）を意識した研究に取り組んできたが、「教科における探究的な学びの場面の位置づけ」「個人差の大きい児童が自ら学ぶ学び方」が課題となってきている。

また、校務の効率化についても、生成 AI などの新しい機能やアプリケーションの研修を進め、更なる有効活用ができるように検討・試行を進めていきたい。